

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>タジキスタン国内の障害者の障害の程度や生活環境により適した車いすの製造と配付の強化及び障害児寄宿舎学校の施設の修繕と修繕した温室を用いた野菜づくりなどの作業療法を通して、特に旧ソビエト連邦（旧ソ連）崩壊後困難な状況におかれている障害児を含む障害者が自らの可能性をのばし、より自立した生活を送れるようにする。</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) 車いす工房の整備 雨漏りが深刻であった工房の屋根及び天井を含む内装、外装を修繕した。また、老朽化の進んでいた工具類は買い替え、電気の供給が不安定になる冬季のための発電機も新たに設置した。</p> <p>(ロ) 事前調査の実施 ハトロン州及び政府直轄地域（西部 4 地区）を対象に、専門家の指導のもと、質問表を用いて、工房スタッフが政府作成の車いす待機者リストまたは障害者連盟のリストから、車いすを提供する優先順位の高い障害者の身体のサイズや姿勢、行動範囲のほか、住環境や周囲の道路状況などについて、71 名の障害者を対象に調査を行った。この調査結果をもとに、車いすのサイズを S, M, L の 3 サイズに決め、舗装されていない道でも転倒のリスクが少ない 3 輪タイプの車いすを製造することとした。 また、ヒッサール国立障害児寄宿舎学校の児童・生徒に関しては、車いすの必要な児童・生徒の身長や坐幅を調べ、校舎内で小回りの利く 4 輪タイプの車いすを配付する予定である。 日本の専門家が現在までに、12 月と 2 月にそれぞれ 1 カ月程度出張し、2 月の出張で、工房スタッフと共に 3 輪タイプの 3 サイズの車いすの試作品を練習のために製造した。現在、工房スタッフが 3 輪タイプの 3 サイズの車いす製造を開始している。現在完成したものはまだないが、全てのサイズの車いす本体のフレームの製造を進めている。</p> <p>(ハ) 車いす工房スタッフの事前・事後調査方法の習得及び団体運営能力の強化 車いす製造に関連する上記の事前調査を、工房スタッフが独自に行えるよう、日本の専門家の出張時に、身体のサイズの測り方などの実地研修を行った。また、会計や各種報告書作成、供与物品の維持管理などの方法について 2 週間に 1 度のペースで、工房スタッフが作成した各種書類の内容を当会職員が確認し、助言や指導を行っている。</p> <p>(二) ヒッサール寄宿舎学校の施設修繕 老朽化で雨漏りのひどかった寄宿舎学校の屋根と、旧ソ連崩壊後、修繕が行われず使用不可能な状態となっていた温室 1 室の屋根と壁の修繕と、新たな暖房設備の設置が終了した。</p>

	<p>(ホ)ヒッサール寄宿舎学校敷地内の温室を用いた作業療法の実践</p> <p>学校内では温室を用いた野菜作りが始まっている。一方で、冬季は天候不順などにより交通の便が悪く、地域住民の協力と理解のもとで行われるレモンや野菜作りといった作業療法は、5月頃行う予定である。</p> <p>(ヘ)ヒッサール寄宿舎学校への車いすの配付</p> <p>ヒッサール寄宿舎学校へ配付予定の10台の4輪タイプの車いすは、6月頃を予定している専門家渡航時に製造指導予定である。車いすの配付は6月以降の専門家渡航時に行う予定である。</p>
(3) 達成された効果	<p>[成果 1]車いす工房の屋根が修繕され、車いす製造に必要な機材が工房内に整備される</p> <p>車いす工房の内装及び外装の修繕が終了し、溶接機や縫製用ミシンなど製造に必要な機材が揃い、発電機が設置されたことによって、車いす製造のための作業環境が整った。3月末より製造作業を始め、月に20台のペースで製造することを目標としている。4月現在は車いす本体のフレームの製造段階であり、今後、車いすのシートを取りつける作業に移る予定。</p> <p>[成果 2]障害者の身体や生活環境に合い、長時間使用できる車いすが製造・配付される</p> <p>専門家による身体のサイズの測り方などの実地指導のもと、車いすを希望する者に対し、工房スタッフが身体のサイズや姿勢、行動範囲のほか、住環境や周囲の道路状況などの事前調査を行った。これらの情報から、必要な車いすを適切に査定できるようになった。また、工房スタッフは、1ミリ単位で設計図に忠実に工程を進めるなど、丁寧な作業を積み重ねることが、丈夫な車いすを製造することにつながることを専門家から学んだ。工房スタッフのみでも設計図を何度も確認して作業を進めている。これらの作業により、障害者の身体や生活環境に合った、長時間使用可能な車いすの製造に向けて一步を踏み出した。4月現在、車いす本体のフレームが16台完成している段階であり、配付は、今後シートを取り付けた後順次行っていく予定である。</p> <p>[成果 3]現地団体 Dilshod の車いす工房スタッフが独自に事前調査・配付時最終確認・配付後モニタリングを行えるようになる。</p> <p>専門家の実地指導のもと、工房スタッフは前述のように身体のサイズや姿勢、行動範囲のほか、住環境や周囲の道路状況などについて調べる事前調査方法を習得した。現在では、専門家の付き添いなしに個々の障害者の身体や生活環境に適した車いすの仕様についてを適切に査定できるようになった。また、当会職員による指導のもと、会計や各種報告書の作成、供与物品の維持管理を工房スタッフが行っているが、これまでのところ問題なく行うことができている。</p>

	<p>[成果4]寄宿舎学校の屋根が修繕される 雨漏りのひどかった寄宿舎学校の屋根を修繕したことにより、授業に使用可能な教室の数が13部屋増えた。</p> <p>[成果5]1つの温室が修繕され、地域住民の協力のもとに障害児がレモンや野菜作りといった作業療法を通して生き生きと学校生活を送ことができるとともに、地域における障害者（児）についての理解が深まる 老朽化により、枠組みだけが残り使用不能となっていた温室の屋根と壁を修繕し、新たに暖房施設を設置したことにより、温室での活動が可能になった。地域住民の指導のもと行う予定の、レモンや野菜作りを通した作業療法は今後学校と日程調整を行い実施していく予定である。</p> <p>[成果6]寄宿舎学校の児童・生徒の身体や生活環境、障害に応じ、長期間使用できる車いすが製造・配付される 6月頃を予定している車いす専門家の渡航時に少なくとも10名分の車いすを製造予定である。</p>
(4) 今後の見通し	<p>車いす工房では、事前調査をもとにした車いすの製造を継続とともに、工房スタッフは、配付時に足の長さにあわせて足のせ台を調整したり、背中の形状に合わせてシートの張りを調整するなどのフィッティングアセスメント方法を、専門家の指導のもと習得する。また、工房が独自に活動を継続できるよう、ドナーの情報収集や工房紹介のパンフレットの作成などの広報にも今後は力を入れていく。</p> <p>ヒッサー寄宿舎学校では、温室を利用した野菜作りなどの作業療法を開始するとともに、ヒッサー寄宿舎学校生徒用の4輪タイプの車いすを車いす工房にて製造し、配付する。</p>